

地場産品を活用した調理指導による食生活改善・向上及び郷土愛を育む取組

宮城県女川町

活動名

女川町食生活改善推進委員会による活動

関係する学校

女川小学校・女川中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	20人	10年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- 平成8年度から始まった、学校教育支援事業である「潮活動(女川中学校の総合的な学習の時間)」において、平成10年度から現在まで「美味しんぼ倶楽部」という講座を担当し、本町の地場産品を活用した調理の指導をしている。平成27年度は年間5回指導を行った。
- 平成23年度からは、本町協働教育連絡協議会の構成団体として任を担い、「学校講師派遣事業」において、小学校高学年児童の家庭科調理実習時の調理指導及び調理補助を担当するなど、協働教育事業に積極的な関わりをもちながら本町の協働教育プラットフォーム事業の推進を図ってきた。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 本町の地場産品を用いた調理の指導を通して、食生活の改善・向上及び地域への愛着形成を図るなどの取組を積み重ねてきた。
- 「さんまのおろし方」などの技術的な指導を始め、食に関する知識を身に付けさせるための「銀鮭についての食育講義」を実施するなど、本町の「食育推進計画」に沿った重要な活動も展開している。

【実施に当たっての工夫】

- 学校側の「授業のねらい」や「活動の流れ」を確認すべく『事前打合せ会』を設け、話し合いを経た上で実施するなど、協働で子供たちの学びを支えることを大切にしている。この打合せにより、調理活動が円滑に展開され、子供たちの学習内容を深めることにつながっている。
- 季節による地場産品の特質を生かした調理活動とするため、本町の保健センター所属管理栄養士の協力を得ながらメニューを考案し、地場産品の活用だけでなく、地域のよさを子供たちに感じさせるように配慮している。

事業を実施して

- 学校教育活動の「主体的・自主的に学ぶ、実践する・交流する」ことを食生活改善推進員が支援することにより、学社融合体制の推進及び社会教育の現場で生徒との交流を図ることができた。
- 食生活改善推進員と教員が「活動のねらい」を共有して指導するなど、しっかりと手をつなぐことにより、子供たちの調理技術の向上及び先人がもつ知恵を、実践を通して身に付けさせるとともに、学習内容の質を高めることができた。
- 調理活動の実施により、子供たち自身の食生活を見直す機会とするとともに、「女川の食」への愛着をもたせることができた。

その他

- 平成14年度から平成27年度現在まで、地域活動支援事業である「まなびっこ」において、小学生を対象とした調理講座を担当し、食生活を深く見つめる機会を提供してきた。多いときには年間10回程度実施した実績がある。
- 「まなびっこ」に参加した児童は、中学校での「潮活動」で『美味しんぼクラブ』に所属することが多く、9年間の長きにわたって食生活改善推進員と関わる子供たちも見られる。そのため、学校外でも気軽に声を掛け合ったりすることにもつながっている。



女川中学校「潮活動」の『美味しんぼクラブ』での指導の様子



女川小学校「家庭科調理実習」の試食時の交流の様子